

マルチルームの活用

取組の背景・目的

【背景】

- * 台場児童館は令和4年度から令和5年度10月にかけて改修工事をしました。前施設においては「中高生専用室」としてテレビゲームのできる部屋がありましたが、狭くてあまり使い勝手が良いとしないためか利用は減少していました。新施設においては50㎡程度の、あえて使用目的を定めない「マルチルーム」をつくり、使用方法は子どもたちとの話し合いで決めたり個別の要望をかなえたりできる部屋としました。
- * 「工作室」「遊戯室」「図書室」等、使用目的がはっきりしている部屋は備えてありましたが、なんとなく走り回る子どもや「つまらない！やることがない」などと言う子どもが多い等、気になる姿が見られていました。“子どもがやりたいことを自分から発信した時には、それをできる限り叶えよう”という気持ちで職員一同子どもの声に耳を傾け、気持ちを引き出す努力をするようにしました。

取組の概要

【実施時間・頻度】 随時

【実施場所】 台場児童館・マルチルーム

【実施内容】 自由

【職員体制】 0名～必要な人数

【その他】 「マルチルームで遊びたいこと
やりたいことがある人は受付に申し出てください」
のアピールのみしておく。

職員からの提案や誘いかけは極力しない状態でスタート。

【これまでの使用要望と実施内容例】

- 中高生 *
- ゆっくりしたいから使わせて・・・2名の場合から6～7名の場合がある。皆でテーブルを囲んで座り飲み物を飲みながらスマホのゲームをしたり音楽を聴いたり、おしゃべりをしたりしながら思い思いに過ごしている。ひとしきりゆっくりと過ごした後、遊戯室に行ってボール遊びを始めることも多い。
 - * 試験前なので勉強がしたい・・・学校の定期テスト前には中学生が数名ずつのグループで20名ほどが連日勉強部屋として使用した。図書館ほど静かにしなくてもよい空間であるため、教えあったり、時折おしゃべりを楽しんで息抜きをしたりしながら「家でやるよりかえってはおかどる」と喜んでいて、保護者にも感謝されている。
- 小中学生 *
- 新しいテーブルゲームを購入したため、説明書を見ながら受付前で実施したが「マルチルームでやろう」という声が上がって移動して楽しんだ。通常は飲食の場ではないがその時はメンバーで盛り上がり、職員と相談したうえで、一般利用児童は持ち



寄りのおやつ、またクラブ児童はクラブのおやつを持ち込んで、職員からの麦茶サービスも加わり、さながら「テーブルゲームカフェ」の雰囲気、職員も子どもたちも異年齢入り混じって楽しんだ。

工夫点・留意点

- * 移転時の部屋紹介には、マルチルームの使用方法（活動の内容）をあえて表示せず、まずは中高生に「使いたいときは使いたい理由を言ってくれば部屋を開けるよ」と声をかけ、口コミ的に「自由に使用できる部屋があるらしい」という雰囲気を作っていた。
- * テーブルやいすの配置は自由に動かせるような状況にしてある。
- * 施設内でのマルチルームの位置が、日常活動を行う「工作室」や「遊戯室」「図書室」とは少し離れていてわかりにくい場所にあるため、「秘密基地」的な空間になっている。
- * 職員は遊びや活動の内容、またメンバーを見て必要に応じて入るが、基本的には「子供たちだけの空間・居場所」となるようにしている。そのため、危険な遊びに発展しそうなものは配置しないように配慮している。
- * 子どもから「マルチルームで〇〇したい」という発信があった時には基本的には受け入れるようにしている。ただし、自分がやりたいことや使用したい気持ちを言葉で表現できる良い機会ととらえて、職員は丁寧な会話のやり取りを心がけている。

取組の効果

- * 中高生がゆっくりと過ごせたり、勉強をしたりできる自由な居場所であるという認識がひろがり中高生の利用が増えている。また保護者にも好評である。
- * 小学校中学年や高学年で、館内の遊びに飽き足らず、ただ走り回ったり、乱暴な行動に出たり、低学年ともめたりする姿が目立っていたが、「自分たちだけで発想を広げて遊びたい」という欲求が満たされる機会が持てることで落ち着いてきた。
- * “自分の気持ちや要求を言葉に出して相手に伝えることで願いが叶う”という経験を積むことで、職員に対して積極的に声をかけてくる子どもたちが増えているとともに、言葉遣いや表現が巧みになってきている姿も見られる。
- * 「秘密基地」的な空間で遊びを共有することで、異年齢であっても仲間意識が強固になってくる場面も見られた。

課題・今後の展開

- * 児童館の中に自分の好きな活動ができる居心地の良い場所が増えたことを大切にとらえ、引き続き子どもたちの声に耳を傾け、小さな自己実現ができる機会を増やしていきたい。
- * 利用希望や利用人数が増加することに伴い、異なる希望が同じ時間に重なったり、利用児童同士のトラブルが増えたりすることも予想される。折に触れて、自分たちの空間であることを意識できるような声掛けやアドバイスをしつつ、極力子供たち同士で解決できるように促していきたい。